

精度管理調査に関するアンケート

精度管理事業部事務局員：大島 康裕（愛知県がんセンター）

実務担当者：精度管理事業部長 齊藤 翠（藤田医科大学病院）

精度管理事業部事務局員：手嶋 充善（豊橋市民病院）

位田 陽史（公立陶生病院）

及川 彰太（藤田医科大学病院）

桂川 陽平（安城更生病院）

I. はじめに

本年度の精度管理調査は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めつつ、日本臨床衛生検査技師会精度管理事業・データ標準化事業システム(JAMTQC)を利用し、昨年度と同時期に実施した。

また精度管理調査と同時に、標準作業手順書や精度管理責任者に関する運用方法についての内容を含むアンケート調査を実施した。次年度以降の精度管理事業展開へ反映させるべく、以下にその集計結果を示す。

なお、ご意見・ご要望等にて重複した内容については割愛させて頂いた。

II. 対象項目

JAMTQC内にてアンケート設問を設定し、回答を求めた。

【アンケート内容】

1. 技師長クラスの方

本精度管理調査の参加費の妥当性や、結果検討会の必要性和開催形式、精度管理調査報告会の開催形式、精度管責任者の職種、標準作業手順書の作成状況について調査した。

2. サンプルサーベイ部門

項目数、試料の量に関する調査を行った(2題)。

3. フォトサーベイ部門

設問量、難易度、設問内容に関する調査を行った(3題)。

4. 評価対象外設問を出題した部門

設問量、難易度、設問内容、評価対象外設問の必要性に関する調査を行った(4題)。

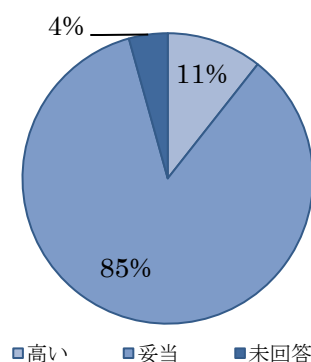
対象施設

アンケート調査は令和4年度愛知県臨床検査精度管理調査に参加した157施設を対象とした。

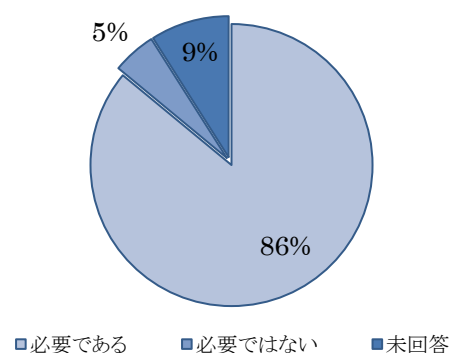
III. 調査結果

1. 愛知県臨床検査精度管理全般

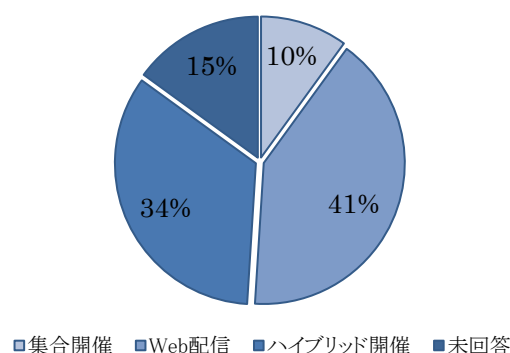
1) 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性について



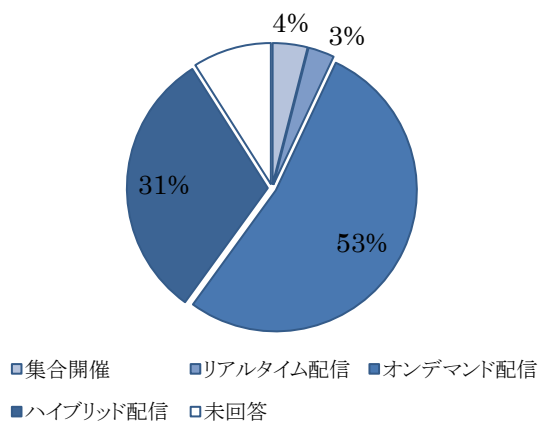
2) 結果検討会の必要性について



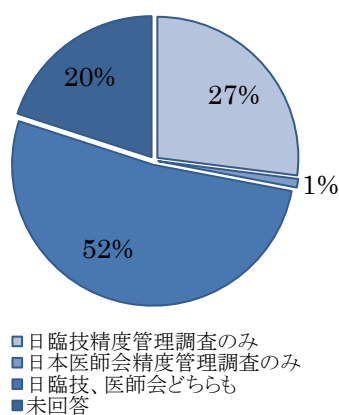
3) 結果検討会の開催形式について



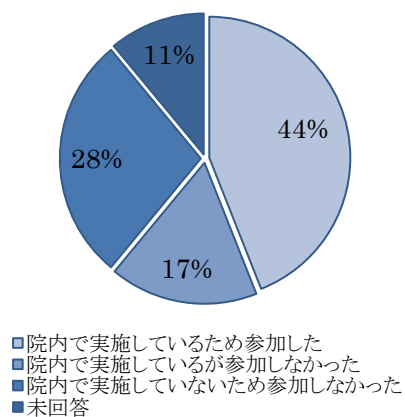
4) 精度管理調査報告会の開催形式について



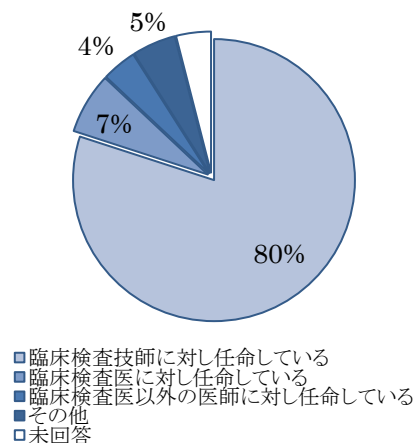
5) 本精度管理調査の他に参加している外部精度管理調査



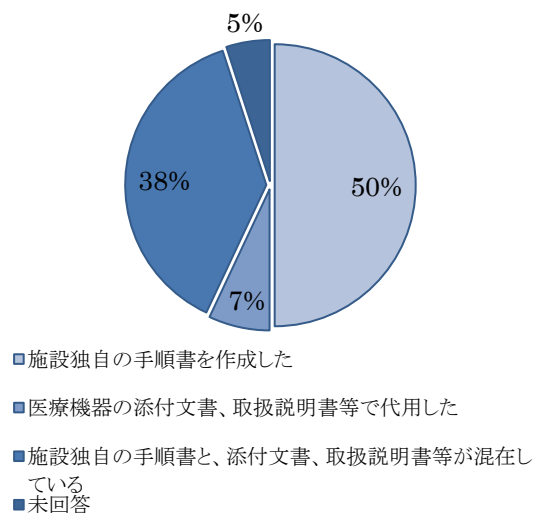
6) SARS-CoV-2核酸増幅検査の精度管理調査について



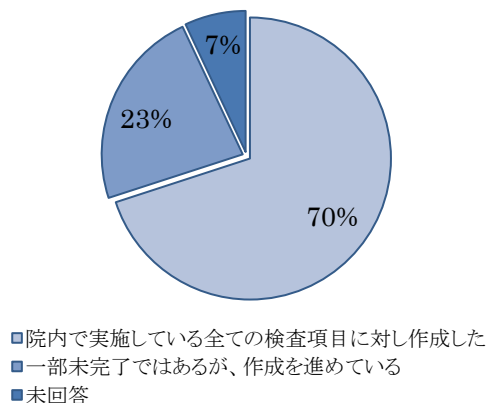
7) 「精度管理責任者」を決めているか(医療機関では「検体検査の精度の確保に係る責任者」、衛生検査所等では「精度管理責任者」)



8) 標準作業手順書について



9) 標準作業手順書等の作成進捗状況について



10) 今後新たに実施してほしい項目について

臨床化学部門：アデノシンデアミナーゼ、アルドラーゼ、尿中N-アセチルグルコサミニダーゼ、尿中 β_2 マイクログロブリン、H-FABP、ケトン体、乳酸、浸透圧、HAV、L-FABP、HCG（定性）、便ロタ・アデノ、薬物血中濃度

免疫血清部門：NT-proBNP、TropT、TRAb

血液検査部門：PT、APTT、Fib

微生物検査部門：グラム染色のフォトサーベイ

病理検査部門：特殊染色

2. サンプルサーベイ部門

1) 測定項目数について

	適切	少ない	多い	未回答
臨床化学	99.1	0.0	0.9	0.0
免疫血清	97.8	0.0	1.1	1.1
血液	98.2	0.0	0.0	1.8
遺伝子	98.2	1.8	0.0	0.0

内訳(%)

2) 試料の量について

	適切	多い	少ない	未回答
臨床化学	93.7	0.0	4.5	1.8
免疫血清	89.9	0.0	7.9	2.2
血液	96.4	0.0	0.0	3.6

内訳(%)

3. フォトサーベイ部門

1) 設問の量について

	適切	多い	少ない	未回答
血液	70.9	3.6	0.0	25.5
生理	96.5	0.0	1.2	2.3
輸血	92.9	0.0	1.2	5.9
病理	96.5	0.0	0.0	3.5
微生物	96.7	0.0	3.3	0.0

内訳(%)

2) 設問の難易度について

	適切	難解	容易	未回答
血液	70.0	4.5	0.0	15.5
生理	88.4	9.4	0.0	2.3
輸血	83.5	12.9	0.0	3.6
病理	89.5	5.3	0.0	5.2
微生物	95.1	3.3	1.6	0.0

内訳(%)

3) 設問の内容について

	適切	不適切設問あり	未回答
血液	70.9	0.9	28.2
生理	90.7	5.8	3.5
病理	86.0	8.8	5.2
微生物	98.4	1.6	0.0

内訳(%)

4. 評価対象外設問

1) 設問の量について

	適切	多い	少ない	未回答
血液	66.4	1.8	0.0	31.8
生理	96.5	0.0	0.0	3.5

内訳(%)

2) 設問の難易度について

	適切	難解	容易	未回答
血液	58.2	10.0	0.0	31.8
生理	84.9	10.5	0.0	4.6

内訳(%)

3) 設問の内容について

	適切	不適切設問あり	未回答
血液	70.0	0.0	30.0
生理	89.5	4.7	5.8

内訳(%)

4) 評価対象外設問の必要性について

	必要である	不必要である	未回答
血液	63.6	1.8	34.6
生理	83.7	3.5	12.8

内訳(%)

IV. 解説および考察

今年度も多くの参加施設に各種アンケートに協力して頂いた。今回実施したアンケートの集計結果から、以下の通り総括した。

1. 愛知県臨床検査精度管理全般について

(1) 他の外部精度管理調査との比較や調査内容を踏まえた本調査の参加費の妥当性は、85.0 %の施設が妥当、10.0の施設が高いと回答しており、昨年と同程度の割合であった。精度管理事業部としては、今後も参加費に見合う調査実施に努めていきたい。

(2) 結果検討会の必要性については、86.0 %の施設が必要であると回答し、5.0 %の施設が必要ではないと回答

していた。また、開催型式については、41.0%(昨年度54.4%)の施設がWeb開催、34.0%(昨年度21.4%)の施設がハイブリッド開催、10.0%(昨年度7.8%)の施設が集合開催を希望していた。昨年度のアンケート結果を鑑みて、今年度は感染症拡大防止に努めつつ、結果検討会を集合開催にて開催した。集合開催ならではの活気ある検討会となったものの、Webあるいはハイブリッドでの開催を望む施設が多く、参加施設数確保のためにも開催形式については再度検討していきたい。

- (3) 精度管理調査報告会の開催形式については、53.0%(昨年度60.2%)の施設がオンデマンド配信、31.0%(昨年度19.4%)の施設がハイブリッド開催、3.0%(昨年度5.8%)の施設がリアルタイム配信、4.0%(昨年度2.9%)の施設が集合開催を希望していた。令和2年度と令和3年度の精度管理調査報告会はオンデマンド配信にて行ったが、今年度は集合開催にて行った。昨年度同様、オンラインでの開催を希望する施設が多かったが、集合開催を再度行うことで来年度のアンケート結果に変動があるのか注視したい。
- (4) 本精度管理調査の他に参加している外部精度管理調査に関しては、52.0%(昨年度47.6%)の施設が日本臨床衛生検査技師会(日臨技)と日本医師会(医師会)の精度管理調査に参加していると回答し、27.0%(昨年度26.2%)の施設が日臨技のみ参加していると回答していた。
- (5) SARS-CoV-2核酸増幅検査の精度管理調査については、44.0%の施設が、院内で実施しているため参加したと回答しており、28.0%の施設が、院内で実施していないため参加しなかったと回答していた。17.0%の施設は、院内で実施しているが参加しなかったと回答していた。
- (6) 「精度管理責任者」を決めているかについては、80.0%の施設が、臨床検査技師に対し任命していると回答しており、7.0%の施設が、臨床検査医に対し任命していると回答していた。また、臨床検査医以外の医師に対し任命していると回答した施設は4.0%であった。
- (7) 標準作業手順書については、50.0%の施設が、施設独自の手順書を作成したと回答しており、38.0%の施設が、施設独自の手順書と、添付文書、取扱説明書等が混在していると回答していた。
- (8) 標準作業手順書等の作成進捗状況については、70.0%の施設が、院内で実施している全ての検査項目に対し作成したと回答しており、23.0%の施設が、一部未完了ではあるが、作成を進めていると回答していた。

2. サンプルサーベイ部門では、測定項目数、試料の量についてアンケートを実施した。

1) 測定項目数について

各部門90%以上の施設が適切と回答があった。臨床化学検査部門の0.9%、免疫血清検査部門の1.1%の施設から多いと回答があり、遺伝子検査部門の1.8%の施設から少ないと回答があった。

2) 試料の量について

臨床化学検査部門と血液検査部門については、90%以上の施設が適切と回答していた。免疫血清検査部門については、少ないと回答した施設が7.9%(昨年度2.4%)あり、昨年度と比較して少ないと回答した割合がやや増加していた。

3. フォトサーベイ部門では、設問の量、設問の難易度、設問の内容についてアンケートを実施した

1) 設問の量について

昨年度とほぼ同様の結果であり、血液検査部門の3.6%(昨年度5.1%)の施設から多いと回答があった。また、生理検査部門の1.2%、輸血検査部門の1.2%、微生物検査部門の3.3%の施設から少ないと回答があった。細胞検査部門は本項目の調査を行わなかった。

2) 設問の難易度について

各部門、概ね適切と回答していたものの、難解と回答した施設が昨年度と比較して増加していた。特に、輸血検査部門においては12.9%(昨年度は1.1%)の施設が難解と回答しており、昨年度からの著増がみられた。細胞検査部門は本項目の調査を行わなかった。

3) 設問の内容について

各部門、概ね適切と回答しており、昨年度と比較して大きな変化はみられなかった。輸血検査部門と細胞検査部門は本項目の調査を行わなかった。

4. 評価対象外設問では、設問の量、設問の難易度、設問の内容、評価対象外設問の必要性についてアンケートを実施した。

1) 設問の量について

各部門、概ね適切と回答しており、昨年度と比較して大きな変化はみられなかった。

2) 設問の難易度について

昨年度と比較し、血液検査部門は適切と回答した施設が増え(昨年度46.2%に対して今年度58.2%)、生理検査部門は難解と回答した施設が増えていた(昨年度4.9%に対して今年度10.5%)。

3) 設問の内容について

昨年度は不適切設問ありと回答を受けた部門はみら

れなかったが、今年度は生理検査部門の4.7%で不適切設問ありと回答がみられた。

4) 評価対象外設問の必要性について

必要であると回答した割合は各部門、昨年度と概ね同程度であった。

V. まとめ

今年度のアンケート調査では、例年同様の内容とともに、結果検討会や精度管理調査報告会について意見・要望を再調査した。結果検討会は昨年度と比較して、Web配信の希望が減少し、ハイブリッド開催や集合開催の希望が増加していることが分かった。また精度管理調査報告会は昨年度と比較して、オンデマンド配信やリアルタイム配信の希望が減少し、ハイブリッド開催や集合開催の希望が増加していることが分かった。結果検討会開催に関しては、感染症拡大防止に努めつつ前向きに検討し、開催形式については、今回アンケート調査で頂いたご意見を基に来年度の検討課題としていきたい。

サンプルサーベイを実施した部門を対象に行った調査では、概ね昨年度と同様の結果であったものの、試料の量について、少ないと回答した施設が昨年度と比較してやや増加していた部門がみられた。またフォトサーベイを実施した部門を対象に行った調査では、設問の内容について、難解と回答した施設の増加が各部門でみられた。

今回アンケート調査で頂いたご意見を真摯に受け止め、来年度の検討課題とし、より質の高い精度管理調査の実施に向けて取り組んでいきたいと考える。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。

VI. 問い合わせ先

〒464-8681 愛知県名古屋市千種区鹿子殿1番1号
愛知県がんセンター
大島 康裕
TEL：052-762-6111
E-mail：yasuhirooshima0419@gmail.com